

サッカークラブ部

勝利への蹴念で 関東リーグ昇格だ

ボールをキープする高原

江戸川大学フットボールクラブ(サッカー部)は「主体性をテーマに関東大学リーグ昇格を目指す」。

主体性軸にチーム強化 須賀「負欲にいくべき」

昨年は千葉県サッカーリーグで3位、Q.5-10といった大勝が目立った一方、9月までは優勝を争うチームに惜敗が続いた。10月の上位校との対戦で何とか持ち直し3位になった。前半戦の戦いぶりが反響点として残った。

須賀源太郎監督は4年、千葉・東京学館浦安高(高)は勝てないことが多く、ギリギリの試合に負け続けた。今年は関東に昇格するためにチームが一丸となって勝ちにこだわる。負欲にいくべき」と勝利への執念を強調する。岡山一豊マゼンヌ・スタッフ・コーチは今季の強化ポイントについて「選手が自分たちで立ち向かえるか、主体性を持ってやってくれるかどうかを、チームづくりにおいて意識している」と語る。セッターやタイムアウトが多い競技と違い、サッカーは試合が始まれば、広いフィールドで個々の判断力が問われる。主体性を持って動けるかが勝敗を分ける。

「昨昇格できなかったという悔しい思いがある。その悔しさを胸にチームを強化していく」という岡山コーチの言葉以上に、選手たちの思いは熱い。相澤瑛斗(現役2年、静岡・静岡東海高)は昨シーズンは10位に順位を下げた。昨シーズンは「現状は決定力不足や、失点の多さが目立つ。関東リーグに昇格するために、日々の練習からもう一歩進んでいってほしい」と監督で自らを追い込む。2年生ながらチームを引っ張る主力選手としての覚悟を見せる。

今年のチームの目標は、強豪は2、3年生の活躍、それを支える4年が支えて勝利にこだわっていくと説明する。2年の相澤は「個々の能力の高さ、技術的な面は各自持っているのだから、それがチームとしてまとまれば、さらに強くなる。改善点は守備のところが、失点の多いので、失点の後、すぐに立て直すことが必要。直せるかがカギになっている」と語る。

学生が主体性を持って動くというチームの方針を体現するような言葉が、監督の先頭に立っている。

とまれはさらに強くなる。改善点は守備のところが、失点の多いので、失点の後、すぐに立て直すことが必要。直せるかがカギになっている」と語る。

学生が主体性を持って動くというチームの方針を体現するような言葉が、監督の先頭に立っている。

「ギリギリの試合で負け続けた…」昨年3位の悔しさを晴らす

明海大監督の指示を受ける選手たち。ゴールキーパーは、ゴールキーパーのポジションに備えて練習する。江戸川大学フットボールクラブの練習風景。

W杯 2026年北米大会

2026年はスポーツ界最大のイベント、サッカーのワールドカップ(W杯)が開催される。スーパーstarが集う世紀の祭典で頂点に立つのはどこか。フットボールクラブの専門家(?)が大予想する。

フランス

超攻撃的コンビで得点量産

2018年優勝、22年準優勝と近年の実績は圧倒的だ。栗原は「他の国より経験値が高い選手が多いし、選手層も非常に厚い」と手堅く予想する。注目の選手は24-25シーズンのバロンドールを獲得したウスマン・デンベレ。22年大会の得点王で、決勝ではハットトリックを記録したキリアン・エンバエとの超攻撃的コンビは相手にとって悪夢だ。

栗原 稔考
経営社会4年
群馬・利根高商

ポルトガル

41歳C・ロナウドに熱視線

「現代サッカーに一番近いチームだ」と思っている」と小嶋は高評価する。「全体的にアスリートとしての能力が高い」というチームの中盤には核となるルベン・ネヴェスとヴィンニシニャがいる。注目の選手は41歳で大会を迎えるクリスティアーノ・ロナウド。「最後のワールドカップだと思うので、期待している」とレジェンドに熱視線を注ぐ。

小嶋 渚生
経営社会4年
東京・正則学園高

イングランド

18年得点王ケイン爆発が鍵

強豪が固定化している欧州各国リーグにあって、イングランドのプレミアリーグは際立つ戦国リーグだ。北崎は「世界最高峰のプレミアリーグで活躍している選手が集結したチームで期待感がとてもある」と説明する。注目選手は、現在ドイツのバイエルンでプレーするハリー・ケイン。2018年大会の得点王が再び旋風を起こせば優勝の可能性が高まる。

北崎 海翔
経営社会3年
千葉・市立松戸高

福祉の プロになる。

EDOSEN

学校法人 江戸川学園
江戸川学園おおたかの森専門学校

- ・介護福祉学科
- ・こども福祉学科(保育)
- ・心理・社会福祉学科
- ・社会福祉士養成学科(通信課程)

0120-538-505

TEL 04-7153-8500 (入試・広報課) | FAX 04-7153-8501

E-mail fukushi@edogawa-u.ac.jp (入試・広報課)

http://www.edosen.jp